

こうした土壌改良の一方,排水対策も畑作圃場では 11 - 1必須であった。そこで,昭和48~50年には圃場 ガラス室 ガラス室 客砂 作 No21-1 (20a) でパワーショベルで深さ 75cm,幅 客砂 21 - 121 - 231 - 2圃 室 35cm の溝を掘り粗朶, 梨剪枝を 30cm の厚さに入れ, 客砂 客砂 部暗渠 客砂 暗渠 表土を戻す暗渠を 2.5m 間隔に作った。また 50~52 年にかけて は, No.31-1(9a)で深さ45cm,幅 22-1暗渠 12 - 212-3-9 15cm **の**溝を 75cm 間隔に掘って, その中に樹皮を 22-一部暗渠 35cm の厚さに投入,これと直交する暗渠幹線にはエ 22 - 322 - 6稲 アーネットパイプを埋めた。さらに昭和 58 年には圃場 作 No21-2 **のうちの** 16a に対し, 1.5m 間隔, 50cm の 深さにシードパイプを入れた暗渠と 25cm の深耕によ 客 砂 甫 り排水対策を講じた。このほか籾がら,樹皮,チップカ 場 ス,竹,雑木,礫などを用いた暗渠施工で排水を図り, 24 34 - 1現在畑作圃場では 51a (圃 場 No.21, 31-1), 水田 暗運 圃場 (一部畑作に利用) では 143a (No.14,22-34 - 2暗墨 実習圃場 1,24,34-1) について実施し,一部を残しほぼ満足 な実験が行なえるようになった。 実習圃場 なお,基盤整備の後も土壌中には有機物含量が非 運転コース 常に少なく,特に畑作圃場では全炭素 0.5~0.7%, 全窒素 0.5~0.07%で,前述した土壌物理性 の改善 と併せて有機物の施用が急務であったが, 稲わら堆 肥,おが屑堆肥,籾がら,甘草粕,山草の投入,緑肥作 物の栽培によって有機物含量は増加した。

(2) 大型備品

第二次大戦中における軍需産業は終戦と共に平和産業へ切り替わり、あらゆる面で目覚ましい進歩を遂げた科学技術は、試験研究の上にも大きな恩恵を与えた。すなわちオートバイ、自動車など機動力の整備は現地試験や現地調査の速度と能率を向上させ、農業機械の導入は労働力の軽減と一般的な圃場作業の効率化に役立ち、分析機器、電算機など実験機器の発達は実験やデータ整理の能率化、精度の向上などに大きく貢献した。

した。 稲の刈取機では3 機が入ったが,これも バインダは43,44 同 に2,3年後の46年 に3,44同 に3,44同 に4,46日 に4,46日 に4,46日 に4,46日 に4,46日 に5,46日 に6,46日 に7,47日	も刈倒し型で あ年に参行用 には歩行のでも はでも原種が 農地を を を を を を を を を を を を を を	であと結束の 計が導入され 引脱型コンパ 入,47年間 原々種圃場 してウニモリ で 大の技術を発揮 5,26年まで	手間を多く, インも 51 年 6 に 4 が 51 年 6 に 4 が 51 年 6 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に	く要した。4 6年には 入し、刈取り にも2条 けながらの クタ)、トラケ マが「水田車 き、顕微鏡名	2年から県 乗用の自脱 別の能率は開 用を追風景は プタ作露地 で な作露地そる な。 そ 2・3 台, 暗	下で急速に型ンバインドでの上した。この見られなくディガンが、がいの機械	ご普及しに ンも入り こた。また の頃から。なった。4 ハンマース 化生産プ	はじめた本 ,55年に と田植機に 一般田お。 1条用田村	格的な稲 は乗用の は,県内で よび試験! 直機は 55 「が中核研	刈機の:  採種用自  普及をは  田の 多く  年に購り   中に四国	2条別はは、からない。 という はいがい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい
美 映用機器: 美映版器: 美映版語: 美映版語: 美味 に	これらは 戦が パス双の で 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	からの旧式の に観察鏡計 で、29年にも れている35 レフのアサビ 通ーローム線を 5年まめて を含めて卓	のも合い も合い いた いた いた いた いた いた いた いた ない は、 いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた	かった。その ナリンパス 入された。 が初めのた。 なを は く を も が る く を も が る く き も が る り る 、 く き も う く き も う く き も う く う く う く り も う く う も う も う も う も う も う も う も う も う	かため 顕微 2台,33年 カメラは27 真装科に20 東虫和20でも たり頃に借された が導入され、	鏡は 24 年 にニコン 年に 1 台 入されたの 後半から あったが、 が 45 年が さらに 50	に眼入現はの温はらる温はら年				
順るようになり, 手廻 ナルコンピュータは ラト研究」の データ 京冷蔵庫は昭 33 光光度計が入った。 ザー, 46 年によること はではなるになるといる で、各計でのに 変対策事業で、高速の 変対を	57 年に初め を理用として 年に病害実 40 年代に入 そ吸光かた。 であった。 なった。そし に分析機器の が整備され、	て NEC8001 ,より高性能 験室にお か って化学科 †が整備され 方 40 年代して農林省でして農林省でして の設置 を補助	型を購入のPC-98れた41年の Aた41年の Aた41年の Aによる 基本の Aによる 薬の B、	、、58 年に 00 を導入 製のものが また。 ま56 年に 業 業 間 を 関 が が は が は が は ま が ま に ポ ー ラ に ま の も の も の た き に ポ ー ラ に ま さ い も と ま き と き と ま き と き と ま き と ま き に が ま ら ら が り に が も と が と が も が と が も が も が も が も が も が	は「地域農業 した。試料の い最初 フ,42 も同機の カスト 食品 するたい た。これで であまたい であるたい であるたい であるたい であるだい であるであるであるだい であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも であるでも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも で	集開発プロ D保存用と oた。分析を 2年に分光 oた。これを 方染が社 に、 でいて コマトクロマトク	ジェ して現在 後器度計( らはほと/ らなりに大く 44年では グラフ1台	, 施肥改善 (更) が出り (ま) がお問題 (を) と (45 年に) し (45 年) し	事業で明まな。 まびナイト 譲保全事 となり、農 お分析機器 ブスクロマ た。さらに	紹和 29 年 ロゲンア 業に関連 業試験場 器設置事: トグラフ 2	またがまた。 またがない まんがい まんがい まんがい こうれい こうれい こうれい こうれい こうれい こうれい こうれい こうれ
こ51 年には公害機 こよって,排液処理 単事業として亜硫酸 研究を実施した。 その他の大型備品 水分測定用高速自動機器の関係では り機器の関係では は (3)職員数の動き 戦後における本場	器整備事業 横事に としない としない を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	で,恒温水平 県単事業とは 昭和35年1 8年には低源 されて47年1 で核研究で購 きは下表にま	振盪装置 たれ、その たま に実験料保 に は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	低温灰化 れた。農に 数年間に 察のための 字装合試 別間試験は おりで、増	装置なども 公害の関係 りを りを りを りを しの 気象観 しの 気象観 し し し し し し たって を し たって り し たっで し し し し う し う し う し う し う し う し う し う	整備され、係では大気をです。 をでは物に、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	さらに水が 汚染がれ けする亜硫 ,47年に よどが中れ れ,同年 。	質汚濁防. t 会問が た た は は な は サ な サ の り が も も も も も の り り り り り り り り り り り り り り	止法施行(ない) 影響, 環境調された 電子 の約2 代のの約2 代	令の一部 た 44 年1 害予察な 表置 4 基 こ。また気 の気象観	改県の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
かし,48年の石油危 者の補充が行われた けて9名が増えが増え 量一割増員(昭和 22 間,37年に分場で 発出をは場ではいる。 発出ではいる。 があり、それたののの間ではいる。 があり、それたののの間ではいる。 があり、それたののの間ではいる。	い年もあった るが,これに発 年)によめによめによる 年)のま場とでは がが増して、そ で で で は が が が で は で は で で は が で は で に な り で は が が さ る り で は が が さ る り で り で り で り で り で り で り で り で り で り	て,この 10 <sup>4</sup> は終戦によっ 経足した低位 のである。 昭 とによりさ らい れされ,また り,本場とし 一挙に 9 名か	手間はやか て戦地から 生産地調 日和 27 年 こ 4 名がい 拡張され ては現在で が増員にな	や減少の (c) う引揚げた 査事業 (昭 には位き きえた。46 た圃場管理 までのうち こった昭和 2	頭向にある。 職員の復職 和 20~23 E産地改良が 年には石ま 里のために で職員数の: 27 年の職員	研究職員 はと,戦後の 年)および 施設事業の ド町へ移転 5名の作業 最も多い年	について )食糧 が発生予 が が が 計 は 、 改 が 新 に で あ り が に で あ り に で あ り に で あ り に で の に で の に に の に に に の に の に に の に に の に に に の に に に の に に に に の に に に に に の に に に に に に に に に に に に に	みるとまる 切り抜り 察事業対策調 横が完する 規採用される。	ず 21 年か けるために 整備強化に 査その他 した年で れた結果, て 年以 46 年以	ら24年 に展開され に伴う国 で4名が 、これに作 研究験地 関議 は若 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年 で4年	にた職増っとは減
年次       研究職       行政職       技能職	21 22 1 23 3 3 2 21 23	2 23 23 21 3 3 5 5 5 3 29 1	24 25 24 3 4 5 5 5 33 33	26     27       25     29       3     3       5     5       33     37	本場の職 28 29 25 25 3 3 5 5 33 33	30 28 4 5 37	31 28 4 4 36	32 33 25 23 4 5 4 4 34 32	23 2 6 4 33 3	35 36 27 66 6 6 4 4 4 35 37 52 52 52 52 52 52 52 52 52 52 52 52 52	37 31 6 5 42
研究職     2       行政職     2       技能職     4	30 31 8 39 40 9 30 28 7 6 5 6 6 6 2 42 39	3 30 5 6 0 41	49   55 43   44 31   32 6   5 6   7 43   44	54     62       45     46       30     33       6     6       7     13       43     52	6 6 12 12 50 49	53 49 ~50 32 5 12 49	50 51 ~52 32 6 10 48	50     48       53     54       31     30       6     6       10     9       47     45	55 5 31 3 5 10 1 46 4	50 53 56 57 52 31 5 5 5 1 11 48 47	58 32 6 11 49
全場計 (注)講習所, なお臨時補助員 たが,29年からは て6か月更新1だ 19年には4~7名 る。そして22条 16年に業務が民	員について 事務,技術 い年雇用と るで推移し 職員の減	所, および は,昭和 28 補助員は なった。22 ,石油危機 少,用務 員	3年まで 地方公務 条職員 以後 50 の補充I	は労務人	22条第2 和40年 財政事情 どに伴って	項の規定 項には13 の逼迫に で電話交	定に基っ 3名にも こよって 換,本館	づく,いわ なったこ 3名に演 清掃は	べて日々 ゆる 22 とがあっ 或り現在 石井町~	条職員 ったが,4 に至って へ移転し	とし 41~ てい した
だされている(池日 (4)科,係の変遷 ① 総務課庶務 大正11年機構 たが,昭和32年に 度を廃止して係長 てもあったが,戦後 は運転士,用務員 流合して総務課	系係 改革によっ に徳島県農 長制度を設 後急に増加 (各1名を)	oて部が係 業試験場 けた。遡っ iした予算, 加えて8~	となり,庶 設置条例 で戦後 職員,物 9名とな	務係およ 列が全 面 まもない明 件などの った。その	び会計係 i改正され B和 21,22 事務を円 の後 47 年	と改称さ ,両係を合 年頃に/ 滑に処理 には庶発	れて以 合併して は事務耶 !するた。 傍係と4	来 36 年 庶務係。 戦員が僅	とし,今ま か1名。 員も増員 設された	での主 と 言った され,34 と管理係	任制を時年を
はうになって,49年 第課長,庶務係長 名がいる。 ② 総務課管理 本場の改築,移 行っていた労務/ 和44年4月に管 はたが,一般圃場	:,主事,技能 転に伴い, 長 大夫の管理 で理科が発 に作業員 5 の管理は	師(運転士) 昭和 43 年, 里指導およ 足,原種農 名で前記 すべてこれ	の4名 <sup>2</sup> 度限りで 関主に 場の主任 業務を担 を行うこ	で,他に臨 廃止され 園芸科が まであった 1当した。 とに なっ	時職員(2 た阿波原 担当してい た川真田 翌 45 年度 た。昭和	2条職員 種農場 いた農業 労樹主任 をからは和 46年には	が行って 分校の 研究員 話,麦の は石井町	ででである。 できまれる しゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう はいしゅう かいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいい はいしゅう はい	よる電記 種栽培, 所掌する こ,技師 1 芸業務は 転が完	交換手 庶務係 ことと 名と に に で れ に に に に に に に に に に に に に	各がて来に場
面積はいっそう増 こ富岡,藍住両試 3名となり体制が 改職にかわった。 とになった。そし の内容は従来と多 は各科に配属され 場,試験地の技師 る。 なお,管理係職	、験地の廃が整った。それまた,今まで 47年に変わっているがでいるがでは能)3 名	止に件う作 そして,この で各科に酉 こは総務課 ない。現在 ない。現在 ,原則として ,について	業員の 年管理 が置され が置かね 王の職員 こ2年に はそれる	配置換え 科を管理 ていた作 れ,管理係 数は係長 1 度各人 ごれ分場,	もあって, 係と改め( 業員を,管 は庶務係 長以下 12 の希望に 試験地の	その数は 規則係 理 係 と 共 に こ 名 で , う ち 直 属 と し し れ し た し た し し た し た し た し た し た し た	係長,技 24号),係 るとし組長の 係 が 場 の 場 り の 場 り の 場 り り 場 り 場 り り り り り り	師1名, 系長の職 一室に 組 と と と と と と と と 組 る 名 に え る と る と る れ る る る ら る る る ら る ら る る る る る る る る	作業員種は研究を表するまでは、本のでは、またのではでは、またのでは、またのではでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、	11名の 究職から 中管理を たが,業 直属と こただし	合行行務しかて
なお,官埋係職員の建設,土壌改良事表彰を受賞した。 ③ 作物科 主要食糧の増展 など優良種子生産 すっていた にないた原種素 にない、表には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	、環境整備 こ。 童は戦後も 産の必要性 栽培が少な 重決定調査 の研究,麦の	すなどに労を 引き続いて さくなり,試験 でとなり,国科 の移植栽培	と惜しむ。 こわが国 う高まり, は研究に 浦事業と 手,枯れ	ことなく取 農業の重 昭和 25 <sup>4</sup> 重点がよ して強化 熱れ対策	り組んで 重要な課題 軍には久朋 らかれるよう され,栽培 などが研究	きたが,そ !であった 券原種農 うになった 法では際 だの柱と	の功績 -が,その 場が設 た。すな 余草剤や なった。	が認めら 対応策 置されて わち稲, かれ稲の そして,-	oれ,58 <sup>年</sup> の一つ。 こ,これま 麦の品和 早,晩期 一時中断	F 12月 として稲芸 で種芸 験に 栽培な れて	に対表。まな2
職員1名が配置。 昭和32年にはされ、それに伴って試験も加わり、素を目指した試験はその後の原種の時これを担当した。 として種子の需要にも栽培を委託する。	されて職員 機構改革は 成時法の数 は中心がは ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではな	数は農機こよって種でも科長のに水稲の直流がれるように場の移転には再び作物と、	具担当を 芸部が付 まか技師 を を を はなった に伴う阿 ま の れ と と を を を を を を を を を た と た と と と と と と	s含め6年 作物科に f3名,助 機械移植 c。 波原種 を を だけでに だけでに	さなった 改められ, 手1名の 栽培,麦の と富岡 た。しかし はこれに応	。 飼料作物 計 5 名に )多条播。 試験地の レ40 年末 じきれな	nと農機 に減った 穴播,全 の廃止に で頃から くなって	具部門だ。その後 で面全層 こよって、 ビールラ 「,50 年度	が新設の デンサー 播栽培を 新設の を を を の 表 を に た に に に に に に に に に に に に に	)経営科など省 :  管理科な 協町の	hに利力 力化 がに に しま
が設置されてこの こ減った。しかし 員1名が増員され 近年は米の過剰 近年は米の過剰 の早熟化栽培,その 年熟化栽培,そ の「種科」 原種の生産と配 両分場で行われ	54年には れた。 側に伴う水 利用拡大 れに除草 されは,農事 てきた。した	32年から 田利用再終のための他 剤,生育調節 試験場開	経営科が 扁対策に 担用途米 節剤など 設以来の 移転に何	が担当した で関係した の栽培, での研究が の研究が の重要な 半う原種	<ul><li>(いた飼料</li><li>(研究が中 麦作では と科長以下</li><li>(業務として 農場や富</li></ul>	+作物の い心となり 良質化,何 「4名が」 「,種芸部 岡分場の	試験が ,大豆, ,大豆, ,大 ,大	再び作物 ペテビア,1 系改善と ルでいる。 ト),阿波原 によって,5	7科へ移 飼料作物 多収安? 京種農場 移転後/	され,	所究田め 田係
の業務のほとんとつれて稲,麦種子委託栽培せざるをではダイコン,シロ昭和 54年に育種た。業務の介種に要対当することは同体制のもとでこの	の需要もなった。 ではいい できない できない できない できない が新設は稲,麦の原を担当した きわめてま	曽大,ビーハった。こうし う,ネギなども された。そ で種生 産,ス が,ダイコン よい。	·麦につ た原種生 時産野菜 して2年 大イチた イン、たった	いては試 生産 の重 をの優良い が作物を か品種決り 、ソラマメ、 かに、57年	験場内だ 要性の増 品種,系統 斗から,1 名 定調査事 シロウリ,ネ	けでは文 加に伴う の育成,f が園芸和 業など主 ギなど多 野菜	対応が困 一業務の 発存の いい いい いい いい いい いい にいい にいい にいい にいい にいい	難となり 分化,責 要望が現 の関係を で 要 要 の 関係 素 野 来 科	),現地農 任ので 員3名で と2名で で移して に移して	家に原 確化と, きたため でスター ,他 務 を 1 業 科 内 部	種方に、した名名
⑤ 野菜科 第2次大戦中が どを栽培するゆと 菜が栽培されるよ やずか2名だった 果樹産地の振興 年),藍園蔬菜試馴 れ,これらは実質的 業務は野菜と花 種子が乏しく,農家	りは少なか うになり、こ こ園芸部の と生産の増 検地(27~4 的には 504 きの 2 部門	いった。しかれに関する 和に関する 間かに対応 を年),海南 年頃まで園 目となり、32年	し昭和2 る研究も 年には! して,大 園芸試! まれに, 年には園	24年に作活気を取 活気を取 果樹およ 山果樹詞 験地(29年 属してい 園芸部は	F付統制かり戻した。 び花き担い で花き担い な験地(昭和 年~), 管制 た。昭和3 、	が撤廃され そして終 当の各 1 和 23 年~ 战培試験 の 年には な称された	れるや反 発戦当時 名を加 ~30年) 地 (30年 に 果樹部 た。昭和	動的と えて5名 板東園 手~)なと 門が独 125~30	いえるの柱技能となった芸試験地で対して頃は	程多くの 市と助き た。一方 也(27~2 いで開 ご。一方 も(27~2 いで開 の 野菜の	の手野9 設担優
らは、特産野菜の 育成した品種の 験も30年頃から るこれと前後して 39年頃には礫 毎部郡宍喰町な 間実施した。しか 昭和48年に到来 たが、54年の第2	うち種苗会 選定試験に始まり、ホル始まった。 財栽培やでは とを病やで した石油の	社があまり こ替え,これ モン剤に。 少耕栽培が こ5%と全国 つる割病の 危機に対し	取り上に が重要 まる着果 新しい打 配をも みでも 最 では,施	げない,一 業務の一 剤の研 タ 支術として も多く,ここ の他の障 設野菜品	部の品目 つとなった 完,クロロ IF こ台頭し,本 れに対応し :害も多く。 品種の低温	にしぼっ た。ビニー C,シマシ に 県の礫 って試験 やがて廃 品耐性なる	た育種(アルによう) たまなど! 耕栽培は研究もないに関す	に切り替 るトンネ 野菜 に対 面積は県 ちたた消極 たる消極	え,その ルやハッ 対する除	他は各地は各地は各地でである。 麻町馬分場できれる かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいま	社の研 詰 数しであ
ナスを対象に地で 園芸科の職員に 3年までは5名 び花きの2科にお 、, 育種業務をそる 園芸部の研究 事物に移り, 石井に	中熱交換力 は38年から であった。 つけ,野菜科 れぞれ分割 室は,昭和2 町に移転す 後間もない	5式による行う 545年まで しかし54年 は研究員 世して能率 25年までオ けるまでの い昭和24,2	当エネル には6名 には4名と が4名と をあげ場 に20年間、 5年頃、	ギーの集 で,野菜担 で 種担当 こなったかいる。 長室の ここで 業 で 当時の 園	E験に取り 担当はその 1名が同程 5,56年には なりに在っ なを遂行し 芸部は野	組んだ。 かちの 4 は育種科 たが,同年 た。 菜と果樹	名であった。翌 <b>5</b> に配属 上農産力	ったが,4 5 年にに していた ロエ指導 に研究を	6年には は園芸科 二研究員  所が転	は1名増 を野菜 を再ひ 出したあ	えが戻っとの
の兼務で花き研究 芽生えた。天皇陸 花き専任の職員が 数は1,000 戸を起 て,38 年には1名 こ改築され,試験 ハウス,冷蔵室な 鉢物,花木など広 実施してきた野菜	き下が県下 が置かれた 対えた。試験 増員もも 画場が一番 が をと花 をとれ をとれ をとれ をとれ をとれ をとれ をとれ をとれ	を巡幸され が,一たおい で放け で放け で拡大 に整備され に を が,一 に は は は は は は は は は は に れ に に れ に に れ に れ に に れ に に れ に に れ に に に れ に に に に に に に に に に に に に	い、これを 家の花 も 2 名 と た。	機に温室され、チューリンなり、施設で 46年の 花き生き ち 年に そこち に そここ こう こ	2 棟が建 急速に伸 リップ,ユリッ との関係で には石井に と産はその たがに、これでれのす	てられた び始め, などの研 でも翌39 町へも着等 かまでも かとして狐	のもこの それかを 年にを を は	の年であ 10年の 各的に進 24坪の に 100m びを見せ の中でを ここにれ	った。翌年のた。翌年のた。では、できるでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、一日のでは、日のでは、日のでは、日のでは、日のでは、日のでは、日のでは、日のでは、	26年に 対定な 対定な 対象を 対象を が表し 対象を がある。 がある。 はいまでもである。 はいまでもである。 はいまでもでもである。 はいまでもでもできな。 はいまでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでも	こだっき東花充
職員は当初から和 行ない、キクでは" ⑦ 農芸化学和 農芸化学部では ていたが、昭和23 をもつ低位生産場 全力を挙げた。そ からは水田を対象 振興施策によって	阿波の娘 <sup>*</sup> は戦後の混 年からは 地調査事業 での後 27 年 をとした施服 て地力保全	""阿波錦" 型乱の中で 緊急食糧場 約 約 終 (23~33 年 に開拓地 に改善事業 と基本調査	などの新 技師 1 / 増産のた 再)に取 調査担 きも始ま (34~46	所品種を作 名を含む め職員を 且み,水稲 当職員1 った。昭 年)が始	作出した。 3名の職」 1名増員 の秋落,酌 名が増員 和32年に まり,低位生	員が戦時 し,4 名の 後性土壌 (27~37 は農芸( 上産地調	÷中から )国庫補 の改良, 年)され と学科と 査職員	の三要素 助職員 塩職員 と改称した は地力・	表現地部 として生 水不良 は計 5 名 こ。34 年 保全職員	は験を継 育阻害 対策な となり,2 に県の	続いと 28 年 28
辰り替えられた。「 有車がかかり,それ ニャク)などの土壌 ノ,サツマイモなと んでがる。一方を が大きく取り上げ ずないる。こて,地 ま業と農林畜産	れに対応し 護調査なら が地畑の 群和40年 置を整備す られるようり 別昭和46年 力保全調査	した国補に びに生育! 生産力向」 項からとして るなって,48 こなって,48 上職員は土	よる種々とまかまる。とのでは、というないでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	の調査等 の調査等 の 解は、水 ない 家 対 本 で ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	事業の中で 対策 347年と 和 47年ところ こ多の 開い とこの 開い に は に は に に に に に に に に に に に に に に に	で果樹,露と来業がとれる。とれまり替えた。 これ	地野菜で課題のこれではいる。	,施設野では、 は、場で現る をは、 ををでいる。 をは、 をは、 をは、 をは、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	菜,特用たる地質をおいます。 年も継続による による は土 年に土	作物(こと) たいました からい たい がい かい	ングり物と是食対
#宋   展   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本	減った。 年から再で 調査,研究を 調査事業に の補助だに を未然に防 糧難から益	かし,畜産りび農芸化学を行っていま,国の財政けとなってしまし,食糧	廃棄物の と科で行る。ただ な緊縮のかまった。 を確保す	の研究が うことにな ,昭和 23 煽りをうけ つる大きな 認識され	農産物に対けます。 り、現在は 年以来業 十て昭和5 、使命のも 、昭和224	対する利 ま5名のA 務の内容 7年を最 とに昭和 年には早	用場面 研究員	に重点が が土壌( は変わり) 当職員( ご発足し に関する	が置かれ R全,砂地 ながらも の設置す た病害!	るように 地畑対策 長年続 資補助か 虫発生・ 地発生・	な 病 い 打 解 が 原 が に が に に に に に に に に に に に に に
所に6名の人員だ 担当と虫害担当に こおいても病害で 設培法の変化が こ精力的に進めた た,26年にはルビ 重室などが相次に 昭和27年には 区観察員は菌虫	が配置され こ分けた。 では「麦類を 水田昆虫村 これ、立れ、立いた これで建てら 観察所に付	た。さらに この頃から まかび病の ま業を いって れた。 て れた。 て れたって病	25年に 発生予禁 流行機 及ぼす げた。そ 算入事業 害虫防	は試験場 察に関す 構に関す 影響」(28 こしてこう で網室伊 余所 10 た	島に2名が る重点解 る研究」(「 ~37年)の した研究を け設のガラ い所が設置	配置され 決事項。 昭和 25~ の研究が と実施すれ ス室,27~ 置され,観	れて5名 や特殊詞 ~37年) それぞえることに 年にはは 察員3	となり, 虚 間査の 明査の で 内 生 石 工 大 が は ま 活 ま き ま き ま き ま き ま き ま き ま き ま き ま き	国虫部の 完も始え は「農薬 専,小林尚 を設の充 室,28年	業務をきまり,徳島 散氏 5 次 できる ( ) できる	病場は中ら菌島
および発生予察に こ川東地区観察 公島地区観察員 は10名(科長兼利 員各1名)にもなったのが完全を受け との研究室を受け とで利用するなど 業舎が講堂の西	員1名,34 を農試にお 客専門技術 った。職員 け、さらに30 をい、その後 他に,35年	年に補助時でき、さら、原員1名、県の増加により年には、発生には、発生には、5連には5連には5連に対する。	職員の定 37年37年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3	数化に。は補助解,県予を実のよび造しています。	はり1名,35 裁員2名か 3名,土地 狭になった として全 い 等虫飼育 する建物が	5年には、定数化は、実施害力、ため、大きのでは、生きない。 大き 大き 大き 実験 でき はい こう はい こう はい	川東地 きれるな 検診員 で東達 で1,33年1 で1,40年	区観察とどれる とこれ とこれ とこれ とう	は専任 悪が 小が代 まな とこれ	としたができる。としたが、島へ移りをという。というでは、島へ客験をは、というできる。	が年観た室室のた。
昭和30年代ま 移行し、特に病害 研究にその中心 たのもこの頃(昭和 株に殺菌剤の委員 戦後における農 よる防除の依存 問題となり、昭和4 れを担当し、特に	研究は施設が傾いていて41年)で託試験も対してまままでままままままままままままままままままままままままままままままままま	設栽培の増いった。キュ いった。たな は は は は は は は は は は は は は は は は は に は に は に は れ に は れ に は れ に れ に	加によっ ウリ緑斑 して発菌 は質、量 が 業 は 大 集 は 大 集 は 大 集 は 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 は し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 大 、 、 、 、 大 、 ま 、 た 、 、 大 、 ま 、 た 、 ま 、 も 、 ま 、 ま 、 も 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と	って問題 Eモザイクでも 割かに 共にた 大した と と に お は は は は に る に る い る に き の ら の に り た ら に る に る に る に る に る に る に る ら る に る に	が多くなっ病が本県 京野菜の高位 果,作物や 残留実態	った 40 年 を中心に 手虫の実 れへと移 立生産に っ された。 を調査し	<ul><li>代に入 大発生 大発生 大きい 大きい たおける 本県に は 、 たま たり たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい</li></ul>	ってから して栽培 か43年 いった。 一献したが る農薬の おいても リ,ホウレン	ら急速に 音農家を から開始 が,一方で 残留が シンウの	野菜病 恐怖に され,農 では,農 大きな たち 女全作	害陥薬、これの
た。 病害虫発生予約 行してきたが,434 なった。昭和 474 員としての技術的 予察員の専任(4) 員定員削減(524 あったが,現在は ⑨ 環境科	察観察所に 年農林事務 〒4月1日 コなつなが 「年),科長の F)などで準	は,予察事業 務所が設置 に病害虫 のだけとなっ の次長専任 所滅し,さらん	をが発生 されて身 防除所の った。こう E (43 年 こ欠員が	以来農業 ア分 は, 厚か独立に して昭和 ),徳島地 補充され	送試験場の 農業試験場 伴い,農業 137年頃り 区予察員 なかった	組織とし 場本務の 試験場の こは 10 名 専任(45 54 年お	て設置 ままであ り病虫和 な数え 年),環場 よび 57	され,観 かるが,病 补とは県 た職員の たれへの 年には	察員がる 害虫防 予察員と の数も,小 転出(50	たの業務 余所専作 :地区予 、松島地 ) 年),県	が 全と 察 区 予察
戦後化学工業の き起こした。また戦 が対応していた。 有機合成農薬の をオなネ社会問題 対応した。これらの り、またその後の業 化学科から2名、この の有効利用に関	戦前から鉱 の開発,普別 として実り 対策を実が 農業公害。 終 養 裏 裏 の 関 き の は の に の に の に の ま の に り に り ま の に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	山等に起 及が急速に 上げられる をさせること や農薬残留 加に対応 っ1名の研	因する土 進むとと ようになった に関す するため 究員が種	· 壊汚染の もに農作って,国の た。徳査研 みこれら あり3名で	つ被害があ 三物や土壌 の関係各名 果では農業 完は精密 野部門を紛 ご出発した	かった。当 寝中に残り 省庁がそ 美試験分り で合しては の環境科	場では 留する の対策虫 の病技術が 50年4 に とは上記	これらの <b>農薬が国</b> に乗り出 科が昭和 ・必要で 月に環境 のほかい	問題に  民の保  し,都道  1044年7  ある点が   意科が新  こ農林音	農芸化健衛生において、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、	学上もいて農物
対応がより適切と 究員1名で残留 たっている。 ⑩ 経営科 経営科の設置り 改良施設調査事 自の活動分野が けていた。昭和3 業経営,飼料作物	みなされた 農薬分析, 以前は,昭和 業や営農 少なく,した 32年農事	ために,53 農業安全値 和25年に記 試験地事業 がって国初 試験場規則	年4月 東用対策 置かれた さなどに 前研究も 川の全面	に 担当者 でほか d 技術連絡 参加して なく,他部 改正を機	番1名と共 上壌汚染文 各室に専作 いた。しか にいた。 は 続会によう	に農芸化 対策,農業 任の経営 いし当時に 事業費の やく経営	ビ学科/ 注用水の 担当者 は食糧 <sup>は</sup> を配分に 科の設情	<ul><li>移され</li><li>水質保金</li><li>1名が画</li><li>よって料</li><li>置が成っ</li></ul>	,以後科 全などの 2置され。 1倒の時 H々と調: たが,業	長のほ 業務に 低位生 代で経 査研究 務内容	かあ産営をは
経営本来の業務 後34年から1名 設置され,経営科 要分野を占め,中 中核研究では主 車していたので,歩 研究はそのあとも いたのあとも いたがおよび牧!	ずつ増えるの増えるのでも関われるのではいる。 を表するのでは、これのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、できる。 では、では、では、では、できる。 では、では、できる。 では、できる。 では、では、では、できる。 では、では、できる。 では、では、では、では、できる。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	て37年に 4名に減っ 47年から始 ,草地の造 ジェクトチ・ 4草地の ま 計 業 業 業 業 業 業 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	は6名に た。その まった「 対人 ム 技 行 場 と 行 る も 57年	なった。 後も 飼料 四国など 所立」 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	しかし,38 斗作物と牧 山間傾斜地 の試験を行 科がその て引き継れ 科に移して 「高位地域	年には農 文野におり 立帯にた。こ 中心とな び、本 会 で、 本 後	機具部する山地のでまる山地のでまる研研ででまる。	門が独地とは悪いない。実施の実施を実施される。としていまれば、	立して農 経営術化 県に当た いた。55 になり、昭 に継続	業機械のことでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	科主るり核師がいるり
る。職員数は39年 ている。 ① 農業機機和 昭和2年に種芸 系がなくなり農機 新連絡室に同居機 覚ましく,耕うん機 要請が強まったた 建物は独立した 2 研究のほかに農	は 芸部の中に 具の研究が していたが 、トラクタ,コ こめに、昭和 2階建で、1	:農具係が: は久しく中  5,32 年に新 ンバインな コ38 年に農 階には農	おかれ,f 断してい f設された どの高性 と業機 板 乗機械	作物研究 た。戦 後 た経営科 生能機械 战科が新記 研究室と根	の中で農 を昭和 24年 に移った。 が相次い 设された。 幾械整備室	機具の記 年になっ しかし戦 で登場し 同年に唐 室が,2 階	大験が行 て農機。 浅後にお ,近代的 農業機械 には研	われてい 具係とし いな農業は は研修館 修室と陳	ハたが,明 て復活し 業機械の 機械化へ が建てい 列室を	召和 14 ン,当時 い発達は への対応 いれたが 設け,記	年技目のご験
レターの前身とし 幾,噴霧器などの やウインチ式各種 とした水稲直播の おいた。近年は力 農業機械科の駅 こ至っている。 ⑫ 機機研修係 行政改革によっ	奨励農機見 種揚土機の り機械化体 て豆栽培の 職員数は 4 く いて,昭和 58	具の選定が研究および 研究および 系,各種コ 機械化体 6~48年ま 8年4月1	注であっ が耕うん。 ンバイン 系確立の 3よび 50 印こ農業	ったが,20 法に関す の性能記 の研究が か~51年に <b>*機械化</b>	年代終りる研究が、 関査などか 中心をなし こ3名とな	から約 10 続き,その いら 40~ いている。 いったほか 、農業試	0年間に 0後はトラ 52年の いは科長 験場にデ	は傾斜地 ラクタ,小 間は田柏 およびる 統合され	を対象型コンノ 直機の研 研究員の	とした音 ベインを 究に重 )2名で	かれば 現る して
再発足した。統合 実習は場運転コー 農業機械の研修 現地研修を実施 ま町中富に農業 和49年4月1日 農業機械化セン 865名の研修修 職員は,専任22	ース等はそ 多は,昭和 ? してきたが 機械化セン 名西郡 設 ノターが設 了者を送り	のまま継続 33 年頃から ,昭和 35 年 ノターが設 井町石井( 置され,農業 出し,農業材	売して活, の歩行用 に頃から 置され, が 農試ト) と と と と と に に に の の の に に に に に に れ, が の と に と に に に に に に に が に が に に に が に に に が に に に に に に に に に に に に に	用していた トラクタや 乗用トラク に移され 計率利用と	る。 P農用エン ウタの普及 タを中心。 ,昭和 58 <sup>4</sup> されるまで ご安全対策	ジンを対 が本格的 とした長期 年3月31 の18年 ほに大きく	象にし 肉となり。 明集合の 1 日まで 間に延 、貢献し	て,市町 昭和 40 肝修に変 続いた。 376 回の ている。	村単位に 年7月 わった。 研修を	こ1~2 に板野 そして 実施し,	日の 郡藍 1,昭 1万
	□ Jean J III	7754( <b></b> 710	1772	H 52111 122 118	NOTE H		en = H	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			